

コロナの感染拡大が止まらないというか、正に燎原の火の如くに広がりつつあり、感染爆発というべきだ。我が国周辺の国際情勢に対する我が国の対応にも憤りを感じざるを得ない。

1 憲法に緊急事態条項を！



我が国のコロナ対策では、何回緊急事態宣言を出そうが収束させることは叶わない。残念ながら、有事とも云える状況に、云わば平時の枠組みで対応しているのだ。私権制限を含むもっと強力な施策を講じる必要がある。最近では専門家ですら、強力な施策の必要性

を口に始めた。しかし、首相は相も変わらず慎重姿勢だ。最早打つ手がないのは明白なのに、同じ轍を踏むのか。出来ること、必要なことを迅速に実施できる態勢を構築する必要がある。必要があれば私権制限も躊躇すべきではない。

医療体制の崩壊危機には、現在のコロナ対応にシフトしていない医療機関に命令・指示して医療体制を再編すれば良いはずだ。何を躊躇うのか。

出来ない言い訳は聞きたくない。最後の手段が取れる法的枠組みを早急に構築し、必要があれば、断行すべし。

2 対中戦略の決意を具体化すべし

韓国には比較的強い対応をする日本も、中国にはどうも遠慮があるようだ。何を忖度するのか、理解不能。米国その他の友好国にはリップサービスはするものの、国内的な実態・実質が全く伴っていない。中国の人権非難決議も、台湾有事における我が国の対処も、尖閣対応にも今一弱腰だ。防衛力の増強を米国に約束したのはお忘れか？危機感のなさには愕然とする。

3 アフガンからの日本大使館員、外国軍機で脱出

普通の国は邦人保護のために為しうる限りの手段を講じている。軍用機等の派遣も行うのが通常だ。日本は、邦人保護のための体制を構築した筈だが、制約が多くて使えない。

フレキシブルに対応できないような枠組みなど論外だ。日本はこれからも、邦人保護のために外国軍機に依存するのだろうか？果たしてこれで良いのか？

4 アフガン政府軍の弱体ぶりに愕然！。

9.11以来20年に亘り、欧米はアフガンに関与し、政府軍の再建に邁進してきた筈だ。陸・空軍及び警察部隊は公称30万人、欧米の支援を受け資金も武器も豊富だった。欧米は、約9兆円の支援を行ったとされる。さりながら、6万人程度とされるタリバンの攻勢に蜘蛛の子を散らすように雲散霧消した。余りにもあっけない軍の崩壊だ。

軍に蔓延る根深い腐敗体質、恐るべき士気低下が顕著で、それが軍崩壊の要因だといわれる。軍を統制すべき政府も問題だった。寝返りの歴史に満ち、汚職塗れ、危険とみれば指導者すら逃げ出すそんな国だ。欧米もアフガン政府および軍再建に相応の努力をした筈だが、それ奏功することはなかった。米国が撤退を決めたのも頷ける。有態に言えば、匙を投げたのだ。魂を育てなかった付けだと云えなくもない。米国大統領や国務長官がアフガン政府及び軍を非難するのも然もありなんと納得できる。

中露が力の空白を狙って働きかけているようだし、イスラム原理主義の脅威が拡散す

る懸念がある。そういう意味においては、米国は無責任と云えなくもないが、より重要な正面にシフトするためには止むを得なからう。

大統領府を占拠したタリバン兵士の映像が、サイゴン陥落(1975/4/30)の映像にダブった。米国(軍)が支援した軍が崩壊し、国家が消滅する。何故、米国(軍)は失敗するのかと問いたくもある。

翻って、我が自衛隊の士気は高く、アフガン軍のような事態は決し惹起しないだろうと確信し、安堵するも、引き続き魂の育成に励んで欲しいものだ。



NHK ニュースから転載

(了)